

## 質疑応答書

科目名：生涯学習社会と図書館

講師名：溝上 智恵子

### 質問

高齢者や認知症の利用者は“困った利用者”と紙一重であり、特に図書館スタッフがきちんと認識していないと彼らを排斥しようとするおそれもある。まずは身内のスタッフに正しく高齢者や認知症を理解させ、対応方法を洗練しておく必要があると思うが、具体的にどのような対策が効果的なのか、教えてほしい。

### 回答

大変申し訳ございませんが、図書館サービスをめぐる個別具体的な対応につきましては、私は回答できませんこと、ご了承ください。認知症の方への対応については、例えば特定非営利活動法人「地域ケア政策ネットワーク全国キャラバンメイト連絡協議会」が実施する認知症サポーター養成講座などの講座を図書館職員が受講することで、関連する知識等が得られます。

## 質疑応答書

科目名：生涯学習社会と図書館

講師名：溝上 智恵子

### 質問

当館において3年前より認知症の関係書を継続的に購入している。また、地域自活支援センター（名古屋市いきいき相談センター）、区福祉課、区社会福祉協議会等と協働して、夏休み子ども向け認知症サポート講座等を進めている。現在、自由に打ち合わせをして事業を進めている。

ガイドラインについては今回知りましたが、ガイドラインと言われると、それに合わせなくてはならないと考えてしまい（公務員のマジメ性）自由に事業を進めていけないような気持ちになる。このことについて、どう考えればいいのか。

### 回答

講義の中でも触れましたが、このガイドラインの中であげていることをすべて適用する必要はありません。「できるところ」から取り組まれることを、ガイドラインの中でも言及しています（p.5）。ぜひ可能なところから始めてみてください。